

## プレスリリース

報道関係各位

2007年11月 8 日

“アルミが生み出す小規模店舗の未来形”  
**『第5回 SUSアルミニウムアワード』受賞作品決定**  
～最優秀賞は屋根・柱一体型構造の多角形アルミが生み出す店舗空間～

アルミ製住宅および建築構造材メーカーのSUS株式会社(静岡県静岡市、代表取締役社長:石田保夫、www.sus.co.jp)は、“アルミが生み出す小規模店舗の未来形”をテーマに、「第5回 SUSアルミニウムアワード」を実施いたしました。このほど最優秀賞、その他 10 点の受賞作品を決定いたしましたので、ご案内いたします。

SUSでは、アルミが建築構造材として国の正式認可を受けた翌年の2003年より、アルミ建材を使ったアイデアを一般公募するアワードをスタートし、今年で5回目を迎えました。今回のアワードには、坂井直樹氏(コンセプト)、柏木博氏(武蔵野美術大学教授・デザイン評論家)、乾久美子氏(建築家)、および石田保夫(弊社代表取締役社長)の4名を審査員に、2007年7月1日(日)よりアルミの特性を生かした機能的かつ美しく革新的な小規模店舗のアイデアを募りました。その結果、プロ・アマチュアを問わず、日本以外にも、6カ国から応募があり、質の高い作品が多く集まりました。今回の特徴として、アルミニウムの軽量さや加工のしやすさといった特性や利点を生かした作品が多く見受けられ、応募者がアルミについてよく理解している様子が感じられました。

このたび、「第5回 SUSアルミニウムアワード」最優秀賞に選ばれたのは、猪熊純さん(30歳)、成瀬友梨さん(27歳)の共同制作による、『アルミの花』です。これは、中心角72度の三角形を6枚組み合わせることによって作り出される花びらのような3次元の空間を、小規模店舗に利用するというものです。すべて同じ大きさの部材で構成されるので、組み立て、解体が容易であるとともに、複数を連結して大きな構築物として利用できるという提案です。均一な三角形を6枚組み合わせるだけというシンプルな構成が評価されました。また、アルミの軽量性や剛性のバランスを考えた作品であり、最もアルミを利用することを感じさせる作品である点が評価され選ばれました。



最優秀賞の『アルミの花』。均一な三角形のアルミパネルが生み出す屋根・柱一体型構造の小規模店舗空間の提案。

なお、11月9日には「第5回アルミニウムアワード表彰式」を開催し、大賞を受賞した猪熊さん、成瀬さんには賞金100万円が、その他の受賞者にも賞典が授与されます。受賞作品の詳細は別紙をご参照ください。

アルミは「3R」(リデュース・リユース・リサイクル)に優れているほか、軽量ながら強度が高い、耐食性がよい、加工がしやすい、優れた質感を表現できるといった特長から、建築やプロダクトの分野で注目を集めています。弊社ではこれまで、曲線を描く住居や海の家、押出材の特性を生かした自由度の高い家具など、アルミの新たな使用法を積極的に提案してきました。特に環境問題への取り組みが注目される昨今、地球環境に優しいアルミの特徴を利用した“アルミ建築”はますます重要になると予想されます。こうした中、弊社ではアルミの利便性をより多くの方に知っていただくとともに、今後もアルミの特性を生かした開発をしていきたい考えです。

**【本リリースに関するお問い合わせ】**SUS本社広報室: 関口/電話: 03-3222-6175/e-mail: [sekiguchi-h@sus.co.jp](mailto:sekiguchi-h@sus.co.jp)

<参考資料1>

【受賞者一覧】

賞の種類	賞典	タイトル	受賞者名	年齢	国名	所属
最優秀賞	賞金100万円 賞状	アルミの花	猪熊 純、成瀬 友梨	30、27	日本	成瀬・猪熊建築設計事務所
優秀賞	賞金50万円	Diversifying Space – Design for a small system within the public space	Andreas Michael Traxler, Jan Escher	27	ドイツ	Dipl. Ing. (FH) of Architecture, M.A.Architecture
佳作	賞金10万円	REMOVABLE CAFÉ	福島 正俊	37	日本	事務所開設準備中
佳作	賞金10万円	うなぎの寝床	牧野 祐介	19	日本	近畿大学 理工学部建築学科
佳作	賞金10万円	LEAF LIFE LOVE	Salvator-John, A. Liotta	31	日本	Architect, Ramadown
佳作	賞金10万円	アルミの森	石沢 英之	25	日本	慶應義塾大学 政策・メディア研究科 三宅理一研究室
佳作	賞金10万円	MAP – Modular Aluminum Pod	Claudia Barahowa, Dimitrios Gourdoukis	32、26	アメリカ	Architect
審査員賞 (坂井)	記念品	0°C SKIN	近藤 卓、近藤 亮	20、26	日本	慶應義塾大学 環境情報学部、 AAスクール
審査員賞 (柏木)	記念品	カラフル	長谷川 欣則	27	日本	フリー
審査員賞 (乾)	記念品	1cm ～アルミの本～	八木 利典	28	日本	株式会社大林組 設計部
審査員賞 (石田)	記念品	アルミの青空カフェ	北村 直也	27	日本	フリーランス

【第5回 SUSアルミニウムアワード 概要】

主 催： SUS株式会社

応 募 資 格： プロ・アマ問わず応募可能

募 集 テー マ： アルミが生み出す小規模店舗の未来形

作品に期待すること： ①アルミの特性(高い環境性能・精度・熱伝導率、軽量性、耐食性ほか)を生かした提案  
構造、設備、施工システムなど  
②アルミの美観を活かした提案  
③アルミが可能にする新しい店舗形態

審 査 員： 坂井 直樹 (コンセプト)  
柏木 博 (武蔵野美術大学教授・デザイン評論家)  
乾 久美子 (建築家)  
石田 保夫 (SUS株式会社 代表取締役社長)

応 募 期 間： 2007年7月1日(日)～9月26日(水)必着

<参考資料2>

【第5回 SUSアルミニウムアワード 受賞作品】

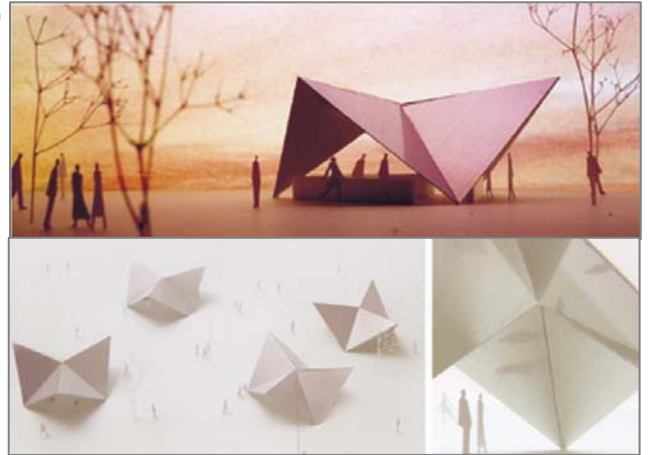
<最優秀賞>

受賞者: 猪熊 純、成瀬 友梨 (成瀬・猪熊建築設計事務所)

作品名: アルミの花

制作意図: 5枚で五角形になる半径600mm、中心角72度の三角形を6枚使って、複雑で立体的な屋根をつくるシステムである。できあがる空間は大きな屋根に囲われた一体感と外に広がる開放感を併せ持つ。屋根が3カ所下がっているため空間は柔らかく分節され、内部を分けて利用することも可能である。すべて同じ部材で構成されるので組立て・解体が容易であるとともに、複数を連結して大きな構築物として利用することも考えられる。

選評: 中心角72度の三角形を6枚を組み合わせるだけという、シンプルな構造だが、それらが折り紙のような組み合わせで生み出す空間が魅力的であった。また、シンプルでありながら、アルミの軽量性と剛性のバランスをうまく考慮した作品であり、最もアルミを利用することの意味を感じさせている作品であった点が高く評価された。



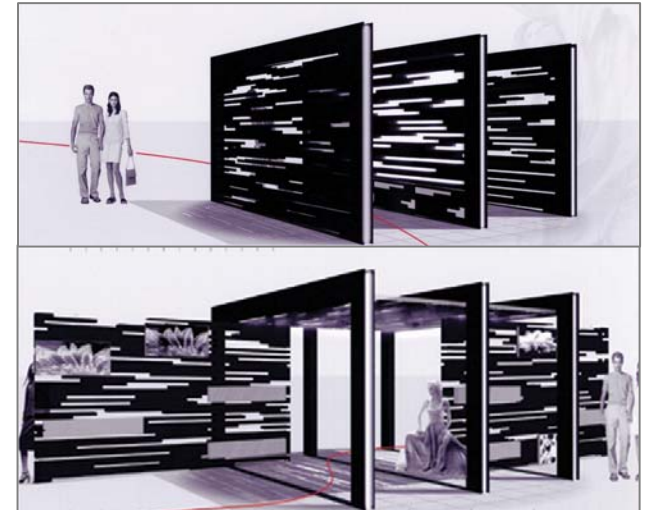
<優秀賞>

受賞者: Andreas Michael Traxler, Jan Escher (Dipl. Ing. (FH) of Architecture, M.A. Architecture)

作品名: Diversifying Space - Design for a small system within the public space

制作意図: 外と内、喧騒と静寂の間、昼と夜の間、公と私の間。私たちはこれらの特性を課題とした。昼と夜の違いで相互作用する空間を、平行して並ぶ3枚の壁によって確立させるというデザイン。営業時には、その壁は雨風を防ぐことができる小さな店舗に変わり、また、開放するのに十分な柔軟性を持ち合わせているため、公の場に設置が可能。夜には、壁を小さく縮小することで、その間を縫うように人が通行できるようになる。また、壁の中にある小さな空間は、展示スペースとして利用することができる。

選評: アルミのパネルを開めることによって最大限のスペースが使える。一方パネルを移動すると複数のスペースを構築できる。襖のようにフレキシブルな空間構成が可能となることが評価された。

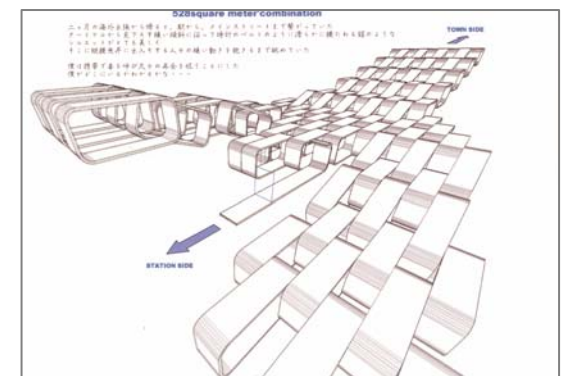


<佳作>

受賞者: 福島 正俊 (事務所開設準備中)

作品名: REMOVABLE CAFÉ

制作意図: 面積6.0㎡のアルミハニカムパネルでつくられたPASSAGE、CABIN、KITCHENユニットおよび面積4.0㎡のPANTRYユニット、長さ10mのAPPROACHユニットを組合せて店舗を構成するシステム。それぞれはアルミハニカムパネルの折り曲げ方を変えることで機能に対応している。PASSAGEは傾斜にも対応するほか、シート部分は温・冷熱シートパネルを内蔵し、屋外ながら快適な体感温度を確保する。



<佳作>

受賞者: 牧野 祐介 (近畿大学 理工学部 建築学科)

作品名: うなぎの寝床

制作意図: ガラスとアルミの柱で構成される部分とアルミパネルで構成される部分が交互に連なっている。正面にある大きな窓は上部に開き、屋台のような形状になる。天気の良い日には窓を開き、内部と外部が連続する。建物内部は移動のための廊下空間と食事空間からなる。



<佳作>

受賞者: Salvator-John, A. Liotta (Architect, Ramadown)

作品名: LEAF LIFE LOVE

制作意図: “Leaf, Life, Love” というプロジェクト名は『自然と存在、感情』に由来している。“Leaf, Life, Love”は魅惑的で機能的な物にするため、自然の幾何学からインスピレーションを受けている。色々な“Leaf, Life, Love”を組み合わせて無限の空間の配置ができる。“Leaf, Life, Love”の目的は公共の空間を美しく、鮮やかで、愉快にすることである。



<佳作>

受賞者: 石沢 英之 (慶應義塾大学 政策・メディア研究科 三宅理一研究室)

作品名: アルミの森

制作意図: 構造材として直径30mmの中空アルミパイプをアーチ状に立てていく。そこに傾斜をつけた15mmのアルミルーバーを口の字型に積み上げていく。アルミのルーバーは周囲の芝や樹木や水面の光を柔らかく反射し、夏には強い日差しを和らげるほか、アルミパイプからドライミストとして水を吹き出し周囲を潤し、冬には弱い日差しを導く機能を持つ緩やかな空気層ができる。

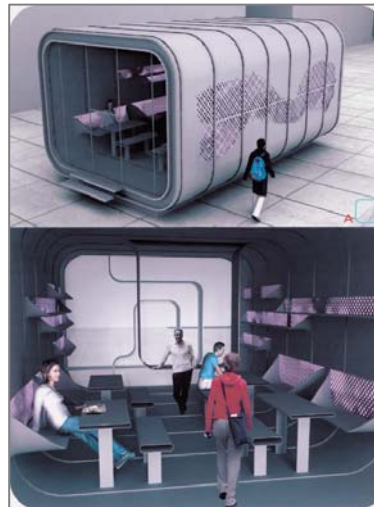


<佳作>

受賞者: Claudia Barahowa, Dimitrios Gourdoukis (Architect)

作品名: MAP - Modular Aluminum Pod

制作意図: アルミの持つ、美しさと機能性という二つの優れた側面を探求することがこの作品のコンセプトである。アルミは、強度を保ちながらも軽く、美しく完成された素材である。ゆえにアルミ素材のデザイン、機能、サイズにおいての素材の多機能性を、作品として実現することがポイントとなった。このようなコンセプトをもとに MAP は考案されており、デザイン性を重視する、機能性を重視するなど、多様な利用目的に合わせてカスタマイズが可能となっている。また、MAP は、空間を創造する建材として、外皮システムとして、さらに家具システムとしても、デザイン・機能面において洗練され、組み立てやすいというアルミニウムの多機能性を利用している。シンプルに、効果的に、さらに簡単にカスタマイズできる点が MAP の特徴である。



<審査員賞 (坂井)>

受賞者: 近藤卓、近藤亮 (慶應義塾大学 環境情報学部、AA スクール)

作品名: 0°C SKIN

制作意図: ファサードの主な材料は、60度千鳥配列のパンチング板が使用されている。この周期のある多孔質な面をふたつ重ねることで暗い影の島模様が生じる。この2枚の板を覗くときに現れる丸い模様は面同士の距離によって変わり、面を近づけるほど大きくなるのがわかった。この仕組みを応用して、平面と二次曲面の2種類の板を使うことで、各部分に様々な面同士の距離がつけられ、流れるような光の表情を生まれるのである。



選 評: 「平面アルミパンチング板」に「二次曲面アルミパンチング板」を重ねさせることで、とても美しいモアレをつくりだすことが、私も含め、多くの審査員に支持された。

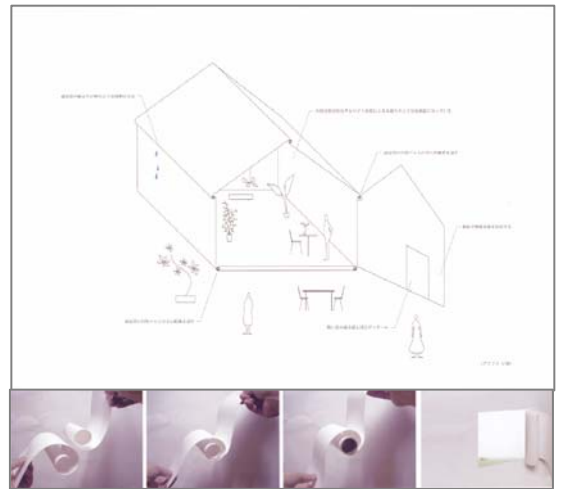
### <審査員賞 (柏木)>

受賞者: 長谷川 欣則 (フリー)

作品名: カラフル

制作意図: アルマイト処理による内部空間と、押出成形による接合部の提案である。部分的にアルマイト処理を行うことで室内に美しい表情をもった反射面をつくり、小さな空間に少しだけ広がりを持たせる。この水溜りのような反射面はおおらかに場所をつくり、そこにあわせて人が動作を起こし、いろいろな場所にモノを置く楽しさも生まれる。建築と人とモノが調和するようなある種の透明さを持つ空間をアルミの表情の美しさでつくり出したい。

選 評: アルミニウム板の端を巻いた状態で、ジョイントにするという提案は、はたして機能的に満足の得られるものなのかどうかはわかりません。しかし、アルミニウム板にアルマイト加工をすることで、アルミニウムの持つ視覚的な特性を生かした効果が期待できそうです。



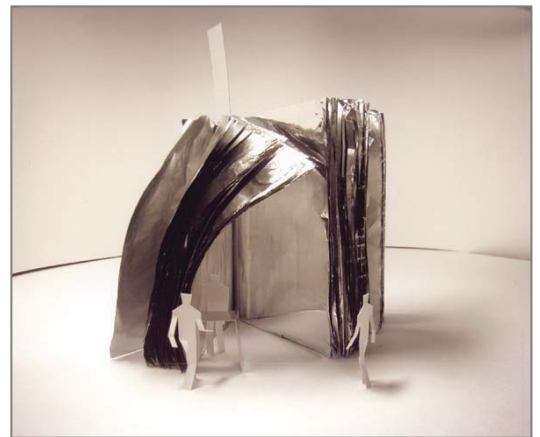
### <審査員賞 (乾)>

受賞者: 八木 利典 (株式会社大林組 設計部)

作品名: 1cm ~アルミの本~

制作意図: 0.01mmのアルミ箔を1000枚重ねて、合計1cmの層をつくる。これらは自らの強度と隣同士の摩擦力によって自重を支える。閉じれば、トラック運搬で自由な場所に設置できる。本の葉のようにアルミの柱を立て、水平力を負担する。この葉はサインの役目も果たす。次にアルミの頁を手でめくり自由に空間をつくる。足元はアルミのカウンターが、めくられる頁に寄り添うことで固定される。

選 評: アルミの中でももっとも建築から遠いところにいるはずのアルミ箔を利用して、建築空間をつくらうとするものだ。実現性に対してのアイデアがまだまだ足りないが、積層したアルミ箔の摩擦以外に、もう一歩なにか強度を得るための手段を考えれば、非常に説得力のある提案になったのではないかと。しかし、ディテールの甘さを補ってなお、人になにか可能性を感じさせる喚起力をもった提案であった。



### <審査員賞 (石田)>

受賞者: 北村 直也 (フリーランス)

作品名: アルミの青空カフェ

制作意図: 小さくて背の高い空間をもつカフェの提案で、気候のよい日には屋根を稼働させ開け放ち、オープンカフェとなる。開け放った時は、背の高いアルミニウムの壁全体に空の色を映しこむ。

選 評: アルミニウムの軽さを空のイメージと結びつけて提案した点を評価しました。軽快なプレゼンテーションとも相まって、アルミが軽量であることが伝わってきます。欲を言えば、技術的な説明があってもよかったのではないのでしょうか。押出による高い精度を活かした開閉システムの提案があればもっと現実味をもった作品になったと思います。



## <参考資料 3>

### 【審査員総評】

#### ■審査員 坂井 直樹 (コンセプター)

アルミを使った小さな商業空間をどうつくるか？という極めて興味深いテーマのもとにSUS建築コンペが行われた。先回のコンペより商業空間とカテゴリーを絞ったためか作品総数は、さほど多くなかったものの興味深く質の高い作品が世界中から集まった。

私自身も初めてアルミに出会ったのは、1988年に山中俊治さんと一緒に作ったO-productというアルミでつくったカメラだ。「コンパクトカメラは黒のプラスチック」という、それまでの常識を大きく変えた。それ以降のカメラ市場では、大半のカメラはアルミを含む金属製になり新しいスタンダードになった。アルミはそれくらい魅力的な素材で、建築家にとっても同様であることがよく分かった今回のコンペだった。

#### ■審査員 柏木 博 (武蔵野美術大学教授・デザイン評論家)

今回のアワードのテーマ「小規模店舗」が、手がかりになったようで、全体にまとまりのよい提案が多かったように思います。また、アルミニウムの加工や特性がかなり理解されていることも応募作品からうかがえました。

アルミニウムをキューブ状にする、あるいはパネル状にするなどの形状のバリエーションはありますが、今回の応募作品の提案では、ユニットによる構成をとっているものが多かったように思えます。とは言え結果としてみれば、入賞作品は特定の傾向にならず、コンテナ形式のもの、パーフォレーションのスクリーン、ショーケースなど多様な表現に広がったことはよかったと感じています。

#### ■審査員 乾 久美子(建築家)

SUSのコンペティションでは、アルミニウムを利用したアイデアを募集している。建材にとどまらず、さまざまな分野に利用されているアルミニウムだけあって、これまでのコンペの提案は、プロダク的なものから建築までと、多様な展開を見せている。その状況は面白いともいえるのだが、プロダクトと建築という比較することが困難なもの同士を競わせるわけだから、提案の方向性やクオリティが拡散している印象は否めなかった。今年は、<店舗空間>という対象を設定したものであったためか、作品全体がある一定の水準をたもったものであったと思う。通常、建築のアイデアコンペは、素材のことをあまり考えない抽象的なものが多いので、アルミという切り口から集まってきた作品を眺めるのは、とても面白かった。